OpenOffice.org 3.1

管理者 ガイド

Copyright

The contents of this Documentation are subject to the Public Documentation License Version 1.0 (the "License"); you may only use this Documentation if you comply with the terms of this License. A copy of the License is available at http://www.openoffice.org/licenses/PDL.html

The Initial Writer of the Original Documentation is Sun Microsystems Copyright (C). All Rights Reserved.

Modify Documentation is Good-day inc Copyright (C).

なお、本ドキュメントのメンテナンスは、下記の場所で実施しています。

http://wiki.services.openoffice.org/wiki/JA/Documentation/Administration_Guide

目次

Copyright....2
管理ガイド....5
パッケージマネージャーによる OpenOffice.org の配備....6
Solaris Sparc/x86....7
インストール....7
アンインストール....7
Linux....9
RPM ベースの Linux ディストリビューション....9
インストール....9
アンインストール....10
DEB ベースの Linux ディストリビューション....10
インストール....11
アンインストール....12
Microsoft Windows....13
OpenOffice.org インストールファイルを展開する....13
無人 (サイレント) インストール....13
OpenOffice.org インストール・セットのネットワーク共有へのコピー....14
アンインストール....14
OpenOffice.org インストールの修復....15
カスタム OpenOffice.org Basic マクロとライブラリ....16
OpenOffice.org Basic ライブラリとモジュールについて....16
OpenOffice.org Basic 設定ファイルについて....16
OpenOffice.org Basic ライブラリの配布....18
ネットワーク上のすべてのユーザーがカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを利用できるようにする....18
カスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを、単一のユーザーが利用できるようにする....19
マクロを使用してカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリをインストールする....20
OpenOffice.org拡張機能マネージャー....23
「拡張機能マネージャー」ダイアログボックスの使用....23
すべてのユーザー用の拡張機能を追加する....23
すべてのユーザー用の拡張機能を削除する....24
unopkg コマンドによる拡張機能の管理....24
OpenOffice.org インストールへのテンプレートファイルの追加....26
OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザー用のテンプレートを追加する....26
OpenOffice.org のワークステーションインストールにテンプレートを追加する....26
OpenOffice.org インストールにテンプレートディレクトリを追加する....26
OpenOffice.orgネットワークインストールへの入力支援ファイルの追加....28
OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザー用の入力支援ファイルを追加する....28
OpenOffice.org のワークステーションインストールに入力支援ファイルを追加する....28
OpenOffice.org インストールに入力支援ディレクトリを追加する....28
登録ウィザードの無効化....30
登録ウィザードを無効にする....30
電子メールクライアントへのアクセス....31
Solaris および Linux で電子メールクライアントを使用するための OpenOffice.org の設定....31
Solaris および Linux プラットフォームで、電子メールクライアントを指定する....31

Windows で電子メールクライアントを使用するための OpenOffice.org の設定.....32
ユーザーインタフェースのカスタマイズ.....33
カスタマイズした XML 設定ファイルの作成.....33
「カスタマイズ」ダイアログボックスの使用.....33
メニュー、キーボードショートカット、ツールバー、およびイベントをカスタマイズする.....33
テキストエディタによる UI のカスタマイズ.....34
異なる OpenOffice.org インストールへのカスタマイズしたユーザーインタフェースの適用.....36
カスタマイズしたユーザーインタフェースをネットワーク上のすべてのユーザーに適用する.....36
カスタマイズしたユーザーインタフェースを単一のユーザーに適用する.....37
OpenOffice.org の機能の制限.....38
コマンド設定ファイルの作成.....38
コマンド設定ファイルを作成する.....38
コマンド設定ファイルを適用する.....40
LDAP サーバー上の OpenOffice.org ユーザープロファイルへのアクセス.....41
LDAP リポジトリからユーザープロファイルを取得するための OpenOffice.org の設定.....41
LDAP リポジトリからユーザープロファイルにアクセスできるように OpenOffice.org を設定する.....41
LDAP ユーザープロファイルのマッピング.....43

管理ガイド

OpenOffice.org Administration Guide では、OpenOffice.org のネットワークインストールを管理する方法を説明します。このマニュアルは、OpenOffice.org をサーバーにインストールおよびセットアップするシステム管理者を対象としています。

このマニュアルを通して、OpenOffice.org インストールディレクトリは、構文で *install-dir* として表します。

パッケージマネージャーによる OpenOffice.org の配備

OpenOffice.org を各プラットフォームにインストールするには、いくつかの一般的なパッケージマネージャーを使用できます (Solaris pkg、Linux RPM、および Windows MSI)。ネットワーク管理者は、コマンド行インタフェースを使用して、ネットワーク経由で OpenOffice.org を配備できます。

Solaris Sparc/x86

インストール

Solaris Package Manager は、ソフトウェアパッケージをローカルに、およびネットワーク経由で配備できる強力なツールです。

次の手順は、OpenOffice.org インストールファイルをダウンロードおよび展開済みであることを前提としています。

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. 次のディレクトリに移動します。

```
<OpenOffice.org_unzip-dir>/packages
```

3. OpenOffice.org をサイレントインストールする場合、admin ファイルを作成する必要があります。これにより、インストール時に何度も表示される質問が表示されなくなります。

```
echo action=nocheck > /tmp/admin
echo conflict=nocheck >> /tmp/admin
echo idepend=nocheck >> /tmp/admin
```

4. OpenOffice パッケージをインストールします。

```
pkgadd -n -a /tmp/admin -d . *
```

インストールが完了したら、OpenOffice.org インストールパッケージを安全に削除できます。

アンインストール

OpenOffice.org ファイルは、ファイルシステムから削除しないでください。OpenOffice.org をアンインストールするには、OpenOffice.org Java セットアップまたは pkgrm ツールを使用する必要があります。

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. OpenOffice.org 関連の Solaris パッケージ名を含むファイル「ooo_packages」を作成します。

```
pkginfo -x | cut  -f1 -d ” ” | grep ooo > /tmp/ooo_packages
```

3. {OpenOffice.org をサイレントアンインストールする場合、admin ファイルを作成する必要があります。これにより、アンインストール時に何度も表示される質問が表示されなくなります。

```
echo action=nocheck > /tmp/admin
echo conflict=nocheck >> /tmp/admin
echo rdepend=nocheck >> /tmp/admin
```

4. ファイルにリストされているすべてのパッケージを削除します。

```
pkgrm -a /tmp/admin -n `cat /tmp/ooo_packages`
```

5. 使用している Java 環境によっては、OpenOffice.org インストーラによってインストールされた次のパッケージをアンインストールする必要があります。

```
pkgrm SUNWj6man SUNWj6cfg
```

これらのパッケージをアンインストールすると、Java 環境が破損する可能性があります。

Linux

RPM ベースの Linux ディストリビューション

RPM パッケージマネージャーは、ソフトウェアパッケージをローカルに、およびネットワーク経由で配備できる強力なツールです。

次の手順は、OpenOffice.org インストールファイルがダウンロードおよび展開済みであることを前提としています。

インストール

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. 次のディレクトリに移動します。

```
<OpenOffice.org_unzip-dir>/RPMS
```

3. RPMS ディレクトリには、Gnome および KDE 統合用の RPM パッケージが含まれています。

4. KDE を使用する場合は、Gnome 統合 RPM を削除できます。

```
rm openoffice.org-gnome-integration-<version>.rpm
```

5. Gnome を使用する場合は、KDE 統合 RPM を削除できます。

```
rm openoffice.org-kde-integration-<version>.rpm
```

6. 標準の `/opt` ディレクトリにインストールします。

```
rpm -ivh *.rpm
```

7. メニューに OpenOffice.org をインストールします。

```
cd desktop-integration
```

該当する Linux ディストリビューション用の RPM を見つけてインストールします。

```
rpm -ivh openoffice.org-<distribution>-menus_<version>.deb
```

別の場所に OpenOffice.org をインストールする場合は、-prefix オプションを使用します。

rpm -ivh –prefix <install-dir> *.rpm

インストールが完了したら、OpenOffice.org インストールパッケージを安全に削除できます

アンインストール

OpenOffice.org ファイルは、ファイルシステムから削除しないでください。OpenOffice.org をアンインストールするには、OpenOffice.org Java セットアップまたは RPM パッケージマネージャーを使用する必要があります。

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. OpenOffice.org 関連の RPM パッケージ名を含む「ooo_packages」ファイルを作成します。

```
rpm -qa | grep openoffice > ooo_packages
```

3. ファイルの内容を慎重に確認します。このリストに含まれるすべてのパッケージが削除されます。JRE を含む OpenOffice.org インストールセットを使用した場合、インストールされた JRE パッケージはこのリストに含まれません。
4. OpenOffice.org 関連のパッケージをすべて削除します。

```
rpm -e 'cat ooo_packages'
```

DEB ベースの Linux ディストリビューション

APT または DPKG パッケージマネージャーは、DEB パッケージをインストール、更新、および削除するために使用され、Debian や Ubuntu などの DEB ベースの Linux ディストリビューションの一部として提供されます。

RPMパッケージをすでに持っていて、DEBパッケージをダウンロードしたくない場合は、下記のコマンド

を使用して、RPMパッケージからDEBパッケージに変換できます。

```
sudo alien -d --scripts *.rpm
```

インストール

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. 次のディレクトリに移動します。

```
<OpenOffice.org_unzip-dir>/DEBS
```

3. DEBS ディレクトリには、Gnome および KDE 統合用の DEB パッケージが含まれています。
4. KDE を使用する場合は、Gnome 統合 DEB を削除できます。

```
rm openoffice.org-gnome-integration-<version>.deb
```

5. Gnome を使用する場合は、KDE 統合 DEB を削除できます。

```
rm openoffice.org-kde-integration-<version>.deb
```

6. 標準の `/opt` ディレクトリにインストールします。

```
dpkg -i *.deb
```

7. メニューに OpenOffice.org をインストールします。

```
cd desktop-integration
dpkg -i openoffice.org-debian-menus_<version>.deb
```

OpenOffice.org を別の場所にインストールする場合は、`--instdir=<directory>` オプションを使用します。
dpkg -i --installdir=<install-dir> *.deb

インストールが完了したら、OpenOffice.org インストール パッケージを安全に削除できます

アンインストール

OpenOffice.org ファイルは、ファイルシステムから削除しないでください。OpenOffice.org をアンインストールするには、OpenOffice.org Java セットアップまたは DEB パッケージマネージャーを使用する必要があります。

1. 必要に応じてスーパーユーザーになります。

```
su -
```

2. OpenOffice.org 関連のパッケージをすべて削除します。

```
apt-get remove openoffice.org*
```

Microsoft Windows

Microsoft Windows 用 OpenOffice.org セットアップでは、MSI パッケージを使用します。MSI は、Microsoft Windows でソフトウェアパッケージをインストールする場合の標準ツールです。

Microsoft Software Installer のアドバタイズオプション (`/J{m|u}`) は、OpenOffice.org インストールパッケージではサポートされていません。

OpenOffice.org インストールファイルを展開する

OpenOffice.org インストールセットのファイルはすべて、OpenOffice.org インストールセットのダウンロードバージョンでは 1 つのファイルにパッケージ化されています。MSI パッケージにアクセスするには、まずこのファイルを展開する必要があります。

ダウンロードインストールセットを展開します。

1. ダウンロードインストールセットのファイルをダブルクリックするか、コマンド行からこのファイルを起動します。

```
「#OpenOffice.org のインストール準備」ウィザードが表示されます。
```

1. 「次へ」をクリックします。
2. ファイルを展開するフォルダを選択します。
3. すべてのファイルが展開されたら、通常の「OpenOffice.org インストールウィザード」ダイアログが表示されます。インストールダイアログの手順には従わないでください。ダイアログを開いたまま、インストールセットの展開済みファイルを別のディレクトリにコピーします。
4. OpenOffice.org インストールウィザードで「キャンセル」をクリックし、取り消しを確認するメッセージに対して「はい」をクリックします。「完了」をクリックしてインストールウィザードを閉じます。

無人（サイレント）インストール

パラメータ /qn を使用すると、インストール時にユーザーインタフェースとすべてのメッセージボックスが表示されなくなります。

```
msiexec /qn /i openofficeorg<version>.msi
```

OpenOffice.org インストール・セットのネットワーク共有へのコピー

このインストールタイプでは、単一のコンピュータに OpenOffice.org をインストールするのではなく、OpenOffice.org インストール用のインストールファイルをディレクトリにコピーします。このディレクトリから OpenOffice.org セットアップを起動して、ローカルインストールを行うことができます。

1. ネットワークインストールウィザードを起動します。

```
msiexec /a openofficeorg<version>.msi
```

2. 「次へ」をクリックします。
3. インストールファイルのコピー先となるネットワーク共有を指定します。ネットワーク共有上の適切なコピー先ディレクトリを選択してください。
4. 「インストール」をクリックします。
5. ネットワーク共有へのファイルのコピーが終了したら「完了」をクリックします。

この共有されたネットワークの場所から OpenOffice.org をインストールするには、共有ディレクトリを参照して `openofficeorg<version>.msi` をダブルクリックします。

アンインストール

コマンドラインから MSI パッケージをアンインストールするのは容易ではありません。MSI パッケージの元の名前を使用してもアンインストールされません。Windows インストーラでは、アプリケーションの ProductCode を使用する必要があります。英語版 OpenOffice.org インストールセットの ProductCode は、ドイツ語版やイタリア語版インストールセットの ProductCode とは異なっています。OpenOffice.org の ProductCode は setup.ini ファイルに保存されています。このファイルは、OpenOffice.org の program ディレクトリにあります。アンインストール用のパラメータは /x です。サイレントアンインストール用のパラメータは /qn です。

1. ファイルマネージャー (エクスプローラ) を開き、<openoffice.org-install-dir>/program ディレクトリを表示します。
2. setup.ini を開き、ProductCode を探します。
3. 次のように OpenOffice.org をアンインストールします。

```
msiexec /qn /x {4BC1CB2B-FDCE-4DB4-A557-BA8127569B0D}
```

ProductCode `{4BC1CB2B-FDCE-4DB4-A557-BA8127569B0D}` は例です。使用している OpenOffice.org インストールの正しい ProductCode を見つける必要があります。

OpenOffice.org インストールの修復

既存の OpenOffice.org インストールの修復にも `msiexec` を使用できます。

```
msiexec /f [p|o|e|d|c|a|u|m|s|v] /x {ProductCode}
```

すべての修復オプションについては、次の Microsoft Developer Network を参照してください。 http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/command_line_options.asp

カスタム OpenOffice.org Basic マクロとライブラリ

OpenOffice.org Basic は、OpenOffice.org の作業を自動化できるプログラミング言語です。OpenOffice.org Basic マクロはモジュールに格納され、そのモジュールはライブラリに格納されます。ライブラリは、OpenOffice.org Basic で作成したダイアログボックスのコンテナとしても機能します。Basic ライブラリは、ユーザーがアクセスできる任意のディレクトリに格納できます。

Basic ライブラリのパッケージングや配備には、OpenOffice.org の拡張機能を使用します。『OpenOffice.org Developer's Guide』では、拡張機能を詳しく説明しています。

OpenOffice.org Basic ライブラリとモジュールについて

デフォルトの OpenOffice.org Basic ライブラリは、`install-dir/share/basic` ディレクトリにあります。ライブラリには次のファイルが含まれます。

`script.xlb`

ライブラリ内のモジュール名が格納されている XML ファイル。

`dialog.xlb`

ライブラリ内のダイアログボックス名が格納されている XML ファイル。

`*.xba`

単一の OpenOffice.org Basic モジュール用の OpenOffice.org Basic ソースコードが格納されている XML ファイル。·ファイル名はモジュール名に対応しています。

`*.xdl`

OpenOffice.org Basic ダイアログボックスのダイアログ要素が格納されている XML ファイル。ファイル名はダイアログ名に対応しています。

`*.pba`

パスワードで保護されている (ソースコードが暗号化されている) OpenOffice.org Basic モジュール。ファイル名はモジュール名に対応しています。

OpenOffice.org Basic 設定ファイルについて

`script.xlc` と `dialog.xlc` 設定ファイルには、OpenOffice.org Basic ライブラリとダイアログボックスの場所が含まれています。これらのファイルは、`install-dir/user/basic/` ディレクトリにあり、このディレクトリにはデフォルトの標準 OpenOffice.org Basic ライブラリとユーザー定義ライブラリも格納されています。

script.xlc と dialog.xlc 設定ファイルの場所は変更できません。

XML ベースの script.xlc ファイルには、OpenOffice.org で利用できるすべての Basic ライブラリのリストが含まれています。以下のタグが使用されます。

library:name

OpenOffice.org Basic ライブラリ名を指定します。

xlink:href

ライブラリの script.xlb ファイルの URL を指定します。この URL は、file:/// 表記で始まる必要があります。

ライブラリがユーザーインストールの <OpenOffice.org installation directory>/user/basic ディレクトリにある場合、xlink:href タグの値を指定する必要はありません。

xlink:type

このタグは、xlink:href タグに必要で、simple に設定する必要があります。

library:link

デフォルト以外の場所にあるライブラリへのリンクであるかどうかを指定します。OpenOffice.org Basic ライブラリのデフォルトの場所は、install-dir/user/basic です。デフォルトの場所にあるライブラリだけを使用する場合、このタグの値を false に設定します。それ以外のライブラリを使用する場合、このタグの値を true に設定します。

library:readonly

ライブラリが読み取り専用であるかどうかを指定します。読み取り専用の場合、このタグの値を true に設定します。

次の XML コードは、script.xlc 設定ファイル (OpenOffice.org Basic ライブラリの) です。このファイルと dialog.xlc との違いは、ライブラリを指す xlink:href タグのみで、script.xlb では、dialog.xlb が dialog.xlb になります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE library:libraries PUBLIC
"-//OpenOffice.org//DTD OfficeDocument 1.0//EN" "libraries.dtd">

<library:libraries
xmlns:library="http://openoffice.org/2000/library"
xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink">

<library:library library:name="Standard"
xlink:href="file:///.../user/basic/Standard/script.xlb/"
xlink:type="simple" library:link="false"/>

<library:library library:name="FormWizard"
xlink:href="file:///.../share/basic/FormWizard/script.xlb/"
xlink:type="simple" library:link="true" library:readonly="false"/>
</library:libraries>
```

OpenOffice.org Basic 設定ファイルの例

OpenOffice.org Basic ライブラリの配布

既存の OpenOffice.org インストール用または新規インストール専用に利用できるカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを作成できます。

`script.xlc` と `dialog.xlc` 設定ファイルは、次のディレクトリにあります。
・Solaris および Linux の場合: `install-dir/usr/basic/`
・Windows の場合: `C:\Documents and Settings\user-id\Application Data\install-dir\user\basic\`

ネットワーク上のすべてのユーザーがカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを利用できるようにする

OpenOffice.org を使用してカスタムライブラリと、そのライブラリのマクロを作成します。

1. スーパーユーザーとして、カスタムライブラリを作成したユーザーインストールから OpenOffice.org サーバーインストールにそのライブラリをコピーします。
`cp -r install-dir/user/basic/custom library install-dir/share/basic/`

2. ユーザーインストールの `script.xlc` 設定ファイルを開き、ライブラリの `script.xlb` 設定ファイルへのリンクを追加します。

リンクには、次の構文を使用します。

```
<library:library library:name="Library Name"
 xlink:href="$(USER)/basic/Library Name/script.xlb/"
 xlink:type="simple" library:link="true" library:readonly="false"/>
```

3. ユーザーインストールの dialog.xlc 設定ファイルを開き、ライブラリの script.xlb 設定ファイルへのリンクを追加します。

リンクには、次の構文を使用します。

```
<library:library library:name="Library Name"
 xlink:href="$(USER)/basic/Library Name/dialog.xlb/"
 xlink:type="simple" library:link="false"/>
```

4. ワークステーション上で OpenOffice.org を再起動します。

Windows では、カスタムライブラリを作成した場所は、C:\Documents and Settings\user-id\Application Data\installation-dir\user\basic\custom libraryです。

カスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを、単一のユーザーが利用できるようにする

1. カスタムライブラリを作成したユーザーインストールから、ライブラリを配備するユーザーインストールにカスタムライブラリをコピーします。

2. Solaris および Linux プラットフォームでは、スーパーユーザーになり、ライブラリをコピーします。

```
cp -r ''install-dir''/user/basic/custom library ''install-
dir''/user/basic/
```

1. Windows では、管理特権を持つユーザーになり、ライブラリをコピーします。

ライブラリのファイル名パスは、C:\Documents and Settings\user-id\Application Data\install-dir\user\basic\custom library です。

3. ユーザーインストールの script.xlc 設定ファイルを開き、ライブラリの script.xlb 設定ファイルへのリンクを追加します。

リンクには、次の構文を使用します。

```
<library:library library:name="Library Name"
 xlink:href="$(USER)/basic/Library Name/script.xlb/"
 xlink:type="simple" library:link="true" library:readonly="false"/>
```

4. ユーザーインストールの dialog.xlc 設定ファイルを開き、ライブラリの script.xlb 設定ファイルへのリンクを追加します。

リンクには、次の構文を使用します。

```
<library:library library:name="Library Name"
 xlink:href="$(USER)/basic/Library Name/dialog.xlb/"
 xlink:type="simple" library:link="false"/>
```

5. OpenOffice.org を再起動します。

マクロを使用してカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリをインストールする

OpenOffice.org Basic ライブラリを OpenOffice.org ドキュメントからインストールするマクロを作成できます。

1. Writer で、新しいドキュメントにカスタム OpenOffice.org Basic ライブラリを作成します。

2. ドキュメントを保存します。

3. インストールするマクロを作成します。

a) 「ツール」→「マクロ」→「マクロの管理」→「**OpenOffice.orgBasic**」を選択します。「**OpenOffice.org Basic** マクロ」ダイアログボックスが表示されます。

b) 「マクロの記録先」リストで、Writer ドキュメントを選択します。

c) 「マクロ名」ボックスで、インストールするマクロの名前を入力します。

d) 「新規作成」ボタンをクリックします。「**Basic**」IDE ウィンドウが表示されます。

e) 次のコードを入力します。

```
Sub AddBasicLibrary
  Dim SourceLibraryName As String, DestLibraryName As String
  Dim oSrcLib As Object, oDestLib As Object, iCounter As Integer
  Dim oLib As Object, oGlobalLib As Object

  ’ set these 2 variables to your lib name
  SrcLibraryName = ”TextLib”
  ’ The name of the library that contains the modules
  DestLibraryName = ”NewLib”
  ’ This library will be created and is the
  ’ destination for the modules from the source document.

  oLib = BasicLibraries        ’ For Basic libaries
  oGlobalLib = GlobalScope.BasicLibraries
  For iLib = 1 To 2
    If oGlobalLib.hasByName( DestLibraryName ) = False Then
      oGlobalLib.createLibrary( DestLibraryName )
    End If
    If oLib.hasByName( SrcLibraryName ) Then
      oLib.loadLibrary( SrcLibraryName )
      oSrcLib = oLib.getByName( SrcLibraryName )
      sSrcModules = oSrcLib.getElementNames()
      iCounter = lBound( sSrcModules() )

      while( iCounter &lt;= uBound( sSrcModules() ) )
        oDestLib = oGlobalLib.getByName(DestLibraryName)
        If oDestLib.hasByName( sSrcModules(iCounter) ) = False Then
          oDestLib.insertByName( sSrcModules(iCounter),_
          oSrcLib.getByName( sSrcModules(iCounter) ) )
        End If
        iCounter = iCounter + 1
      wend
    End If

    oLib = DialogLibraries   ’ The same for the Dialog libraries
    oGlobalLib = GlobalScope.DialogLibraries
  Next iLib
 End Sub
```

f) SrcLibraryName と DestLibraryName 変数を、作成したライブラリ名に置き換えます。

g) 「**Basic**」IDE ウィンドウを閉じます。

4. ドキュメントにボタンを追加します。

a) 「フォームコントロール''''''」ツールバーで、「ボタン'」アイコンをクリックします。

b) ドキュメントで、ドラッグしてボタンを追加します。

5. ボタンイベントにインストールするマクロを割り当てます。

a) 追加したボタンを右クリックし、「コントロール」を選択します。

b) 「イベント」タブをクリックします。

c) ボタンイベント (「マウスボタンを押した時」イベントなど) の隣にある省略符号ボタン「**...**」をクリックします。

d) 「割り当てられたアクション」ダイアログボックスで、「マクロ」ボタンをクリックします。「マクロの選択」ダイアログボックスが表示されます。

e) 「ライブラリ」リストで、インストールするマクロが格納されているライブラリを選択します。

f) 「マクロ名」リストで、インストールするマクロを選択します。

g) 「**OK**」をクリックします。

h) 「割り当てられたマクロ」ダイアログボックスで、「**OK**」をクリックします。

6. ドキュメントを保存します。

OpenOffice.org 拡張機能マネージャー

OpenOffice.org 拡張機能マネージャーを使用して、OpenOffice.org 拡張機能の追加、削除、無効化、有効化、およびエクスポートを行うことができます。たとえば、拡張機能マネージャーを使用して、次のような種類の拡張機能を追加または削除できます。

・設定データ

・設定ライブラリ

・拡張機能

・Universal Network Objects (UNO) コンポーネント
これらのコンポーネントは、コンパイル済みソフトウェアパッケージを表しています。UNO は、OpenOffice.org 用のインタフェースベースのコンポーネントモデルです。このモデルの詳細については、UNO Development Kit プロジェクト Web サイトにアクセスしてください。

拡張機能マネージャーでは、XSLT フィルタ、言語モジュール、またはパレットは管理できません。

拡張機能はダイアログボックスまたはコマンド行から管理できます。

「拡張機能マネージャー」ダイアログボックスの使用

拡張機能は、現在のユーザーのみが利用できるようにインストールする (単一ユーザーインストール) ことも、すべてのユーザーが利用できるようにインストールする (共有ユーザーインストール) こともできます。拡張機能のインストールを開始する前にインストール方法を決めます。

現在のユーザーのみが使用する拡張機能をインストールするには、任意の OpenOffice.org プログラムの「ツール」メニューから「拡張機能マネージャー」ダイアログボックスを開き、拡張機能をインストールします。拡張機能がインストールされ、現在のユーザーはすぐにその拡張機能を使用できるようになります。そのコンピュータの他のユーザーは、この拡張機能を使用できません。

すべてのユーザーが使用できる拡張機能をインストールするには、スーパーユーザーになるか管理特権を持つユーザーが `unopkg add --shared` コマンド行構文を使用して、拡張機能をインストールします。

すべてのユーザー用の拡張機能を追加する

1. スーパーユーザーになります。
2. UNIX と Linux では、端末ウィンドウを開いて、「`su`」と入力します。
3. Windows では、コマンドプロンプトを開きます。
4. Windows Vista では、コマンドプロンプトのアイコンを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

5. install-dir/program ディレクトリに移動します。
6. 「unopkg add --shared package-name」と入力します。

すべてのユーザー用の拡張機能を削除する

1. スーパーユーザーになります。
2. UNIX と Linux では、端末ウィンドウを開き、「su」と入力します。
3. Windows では、コマンドプロンプトを開きます。
4. Windows Vista では、コマンドプロンプトのアイコンを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。
5. install-dir/program ディレクトリに移動します。
6. 「unopkg remove package-name」と入力します。

unopkg コマンドによる拡張機能の管理

パッケージはコマンド行から管理できます。unopkg コマンドの構文は次のとおりです。

```
unopkg add {-v, -f, --log-file, --shared}        extension-path | remove
{-v, -f, --log-file, --shared}       extension-name | list {-v, -f,
--log-file, --shared}        extension-name | reinstall {-v, -f, --log-
file, --shared} | gui | -V | -h
```

addOpenOffice.org 拡張機能をインストールに追加します。

remove

OpenOffice.org インストールから拡張機能を削除します。

list 配備された拡張機能に関する情報を表示します。

reinstall

配備された拡張機能を再インストールします。

gui

「拡張機能マネージャー」ダイアログボックスを開きます。

–V, – –version

unopkg コマンドのバージョン情報を表示します。

–h, – –help

unopkg コマンドのヘルプを表示します。

-v, --verbose

コマンドを冗長モードで実行します。

-f, --force

名前が同じ既存の拡張機能を上書きします。

--log-file filename

ログファイルを作成します。ログファイルのデフォルトのファイル名パスは `cache-dir/log.txt` です。

--shared

上級機能。共有インストール配備コンテキストで動作します。これは、並行プロセスが実行中でない場合のみ動作します。

OpenOffice.org インストールへのテンプレートファイルの追加

OpenOffice.org カスタムドキュメントテンプレートを、ネットワークインストールのすべてのユーザーまたは個々のユーザーが利用できるようにすることができます。また、ドキュメントテンプレート専用のディレクトリを、これらのユーザーが利用できるようにすることもできます。

ユーザーにはテンプレートファイルの書き込み権を与えないでください。

OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザー用のテンプレートを追加する

1. スーパーユーザーになります。
2. `network-install-dir/share/template/` ディレクトリにテンプレートをコピーします。

OpenOffice.org のワークステーションインストールにテンプレートを追加する

1. スーパーユーザーになります。
2. ワークステーションの `install-dir/user/template/` ディレクトリにテンプレートをコピーします。

OpenOffice.org インストールにテンプレートディレクトリを追加する

1. 任意の OpenOffice.org プログラムで、「ツール」→「オプション」→「**OpenOffice.org**」→「パス」を選択します。
2. デフォルトのパスのリストで、「テンプレート」を選択し、「編集」をクリックします。
3. 「パスの変更」ダイアログボックスで、「追加」ボタンをクリックします。
4. 追加するテンプレートディレクトリを見つけて、「**OK**」をクリックします。
5. 「パスの変更」ダイアログボックスで、「**OK**」ボタンをクリックします。

6. 「オプション」→「**OpenOffice.org**」→「パス」ダイアログボックスで、「**OK**」をクリックします。

7. OpenOffice.org を終了します。

OpenOffice.org では、テンプレートパスが `install-dir/user/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` 設定ファイルに保存されます。

8. 次のコードを適切な `Common.xcu` ファイルにコピーします。

1. OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザーがこのテンプレートディレクトリを利用できるようにするには、このコードを `install-dir/share/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` ファイルにコピーします。
2. OpenOffice.org ネットワークインストールの単一ユーザーのみがこのテンプレートディレクトリを利用できるようにするには、このコードを `install-dir/user/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` ファイルにコピーします。

```
<node oor:name="Path">
  <node oor:name="Current">
   <prop oor:name="Template" oor:type="oor:string-list">
    <value>$(inst)/share/template/$(vlang)
      $(user)/template new_template_directory
    </value>
   </prop>
  </node>
 </node>
```

OpenOffice.org ネットワークインストールへの入力支援ファイルの追加

OpenOffice.org では、入力支援項目は `*.bau` 拡張子のファイルのカテゴリに保存されます。OpenOffice.org のネットワークインストールのすべてのユーザーまたは個々のユーザーが、カスタム入力支援ファイルを利用できるようにすることができます。

入力支援項目を作成する方法については、OpenOffice.org Writer

のオンラインヘルプで「入力支援」というキーワードを検索してください。

OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザー用の入力支援ファイルを追加する

1. スーパーユーザーになります。
2. 入力支援の `*.bau` ファイルを `network-install-dir/share/autotext/` ディレクトリにコピーします。

OpenOffice.org のワークステーションインストールに入力支援ファイルを追加する

1. スーパーユーザーになります。
2. 入力支援の `*.bau` ファイルをワークステーションの `installation-dir/user/autotext/` ディレクトリにコピーします。

OpenOffice.org インストールに入力支援ディレクトリを追加する

1. 任意の OpenOffice.org プログラムで、「ツール」→「オプション」→「**OpenOffice.org**」→「パス」を選択します。
2. デフォルトのパスのリストで、「テキストブロック」を選択し、「編集」をクリックします。
3. 「パスの編集」ダイアログボックスで、「追加」をクリックします。
4. 追加する入力支援の `*.bau` ファイルが格納されているディレクトリを見つけて、「**OK**」ボタンをクリックします。

5. 「パスの編集」ダイアログボックスで、「**OK**」をクリックします。
6. 「オプション **&ra r; OpenOffice.org &ra r;** パス 」ダイアロ ボックスで、「**OK**」をクリックします。
7. OpenOffice.org を終了します。
   OpenOffice.org では、入力支援パスが `install-dir/user/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` 設定ファイルに保存されます。
8. 次のコードを適切な `Common.xcu` ファイルにコピーします。
9. OpenOffice.org ネットワークインストールのすべてのユーザーが入力支援ディレクトリを使用できるようにするには、このコードを `install-dir/share/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` ファイルにコピーします。
10. OpenOffice.org ネットワークインストールの単一のユーザーが入力支援ディレクトリを使用できるようにするには、このコードを `install-dir/user/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu` ファイルにコピーします。

```
<node oor:name="Path">
  <node oor:name="Current">
   <prop oor:name="AutoText" oor:type="oor:string-list">
    <value>$(inst)/share/autotext/$(vlang)
     $(user)/autotext new_autotext_directory
    </value>
   </prop>
  </node>
 </node>
```

登録ウィザードの無効化

OpenOffice.org をはじめて起動すると、登録プロセスを完了するためのウィザードが開きます。このプロセスは、任意の OpenOffice.org プログラムで「ヘルプ」→「登録」メニュー項目を選択する方法でも起動できます。登録ウィザードと「登録」メニューコマンドを無効にできます。

登録ウィザードを無効にする

拡張機能を使用して OpenOffice.org をはじめて起動する時に表示される登録ウィザードを無効にするには、次の手順を実行します。

1. DisableFirstStartWzd.oxt 拡張機能をダウンロードします。
2. OpenOffice.org をインストールします。
3. コマンド行で次のように入力します。

```
unopkg add --shared DisableFirstStartWzd.oxt
```

このコマンドにより拡張機能がインストールされ、この特定の OpenOffice.org インストールのすべてのユーザーが、この拡張機能を利用できるようになります。登録ウィザードを無効にする OpenOffice.org インストールごとに拡張機能をインストールする必要があります。

MS Windows 専用: OpenOffice.org クイック起動のショートカットリンクは、First Start ウィザードによって Windows のスタートアップフォルダに作成されます。First Start ウィザードを無効にすると、このショートカットはスタートアップフォルダに配置されなくなります。

電子メールクライアントへのアクセス

OpenOffice.org では、現在使用中のドキュメントを電子メールの添付ファイルとして送信できます。

Solaris および Linux プラットフォームでは、電子メールクライアントは、コマンド行でのコマンドによる電子メールメッセージへのドキュメントの添付をサポートする必要があります。Windows では、電子メールクライアントは Messaging Application Program Interface (MAPI) をサポートする必要があります。

OpenOffice.org は、次のものなど、一般的な電子メールクライアントと連携して動作します。

・Thunderbird 1.*x* および 2.*x*

・Evolution/Groupwise

・Sylpheed/Claws mail

・Apple Mail

特定の電子メールクライアントに関する既知の問題については、「Known problems with e-mail clients」を参照してください。

Solaris および Linux で電子メールクライアントを使用するための OpenOffice.org の設定

使用する電子メールクライアントを指定する必要があります。

Solaris および Linux プラットフォームで、電子メールクライアントを指定する

1. OpenOffice.org Writer で、「ツール」→「オプション」→「インターネット」→「**E-mail**」を選択します。
2. 「**E-mail** プログラム」ボックスの隣にある省略符号 (**...**) ボタンをクリックします。
3. 使用する電子メールクライアントを見つけて、「開く」ボタンをクリックします。

Windows で電子メールクライアントを使用するための OpenOffice.org の設定

Windows では、電子メールクライアントを使用するために OpenOffice.org を設定する必要はありません。デフォルトの電子メールクライアントが Messaging Application Program Interface (MAPI) を使用していれば、OpenOffice.org は自動的にその電子メールクライアントを使用します。Windows でデフォルトの電子メールクライアントをユーザーごとに変更する方法については、Mozilla の次の 記事 を参照してください。

OpenOffice.org では、OpenOffice.org インストールの `program` ディレクトリにある `senddoc.exe` プログラムを使用して、MAPI 電子メールクライアントにアクセスします。

ユーザーインタフェースのカスタマイズ

カスタマイズした XML 設定ファイルの作成

OpenOffice.org では、ほとんどの UI 設定を Extensible Markup Language (XML) 形式で格納します。UI コンポーネントは XML をベースとした User Interface Language (XUL) で定義され、XML ファイルに格納されます。

OpenOffice.org の「カスタマイズ」ダイアログボックスでは、ほとんどの UI コンポーネントを変更できます。たとえば、このダイアログボックスを使用すると、Writer にカスタムメニューを追加できます。

また、XML の UI 設定ファイルを編集しても、UI コンポーネントを変更できます。OpenOffice.org UI コンポーネントの XML 要素と属性については、「#Using_a_Text_Editor」を参照してください。

「カスタマイズ」ダイアログボックスの使用

「カスタマイズ」ダイアログボックスを使用すると、次の UI コンポーネントを変更または作成できます。

・メニュー

・ショートカットキー

・ツールバー

・イベント

変更は XML 設定ファイルに保存されます。「カスタマイズ」ダイアログボックスで変更を行った後、作成した XML 設定ファイルを使用して、ほかの OpenOffice.org インストールに変更を適用できます。

個々の XML 設定ファイルの場所についての詳細情報は、「テキストエディタによる UI のカスタマイズ」を参照してください

メニュー、キーボードショートカット、ツールバー、およびイベントをカスタマイズする

1. UI 要素をカスタマイズする OpenOffice.org プログラムを開きます。
2. 「ツール」→「カスタマイズ」を選択します。

「カスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。

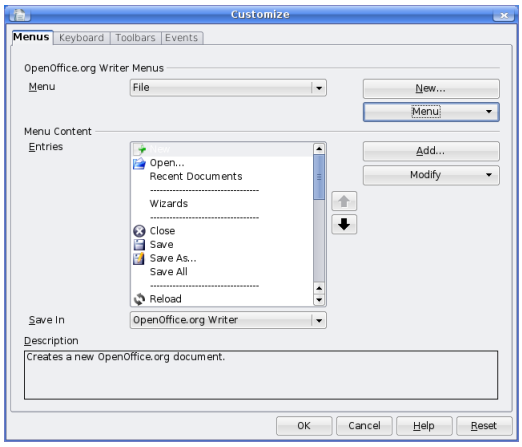
3. カスタマイズする UI 要素のタブをクリックします。

4. 変更を行い、「**OK**」をクリックします。

変更内容は、OpenOffice.org ユーザーディレクトリにある 1 つ以上の XML 設定ファイルに保存されます。これらのファイルのファイル名と場所は `user-dir/config/soffice.cfg/modules/module-identifier/element-type/element-name.xml` です。

テキストエディタによる UI のカスタマイズ

テキストエディタを使用する方法でも、XML 設定ファイル内の UI 要素をカスタマイズできます。たとえば、Writer の「ツール」メニューからメニュー項目を削除するには、Writer の `menubar.xml` ファイルを開いて、そのメニュー項目に対応する XML 要素を削除します。また、XML 設定ファイルを使用して、OpenOffice.org の機能を制限することもできます。詳細については、「機能の制限」を参照してください。



「カスタマイズ」ダイアログボックス

OpenOffice.org モジュールの次のコンポーネントの UI 設定はそれぞれ、別々の XML 設定ファイルに格納されます。

- メニューバー
- ショートカットキー
- ツールバー
- イベント
- ステータスバー
- 画像

これらの UI 要素のデフォルトの XML 設定ファイルのファイル名と場所は、`install-dir/share/config/soffice.cfg/modules/module-identifier/element-type/element-name.xml` です。

たとえば、Writer メニューバーの XML 設定ファイルは、`install-dir/share/config/soffice.cfg/modules/swriter/menubar/menubar.xml` です。

次の表に、各 OpenOffice.org モジュールの短いモジュール識別子を示します。

OpenOffice.org モジュールの短いモジュール識別子

OpenOffice.org モジュール	短いモジュール識別子
OpenOffice.org Writer/Web	sweb
OpenOffice.org Writer/Globaldocument	sglobal
OpenOffice.org Calc	scalc

OpenOffice.org Draw	sdraw
OpenOffice.org Impress	simpress
OpenOffice.org Math	smath
OpenOffice.org Chart	schart
OpenOffice.org Bibliography	sbibliography
OpenOffice.org BasicIDE	BasicIDE
OpenOffice.org Database QueryDesign	dbquery
OpenOffice.org Database TableDesign	dbtable
OpenOffice.org Database RelationDesign	dbrelation
OpenOffice.org StartModule (Backing Component)	StartModule

OpenOffice.org 設定ファイルで使用される XML 要素と属性については、『OpenOffice.org XML File Format Technical Reference Manual』を参照してください。

異なる OpenOffice.org インストールへのカスタマイズしたユーザーインタフェースの適用

XML 設定ファイルを使用すると、カスタマイズしたユーザーインタフェースを 1 つ以上の OpenOffice.org インストールに適用できます。

カスタマイズしたユーザーインタフェースをネットワーク上のすべてのユーザーに適用する

マスター OpenOffice.org インストールで、変更する UI 要素ごとに、カスタマイズした XML 設定ファイルを作成します。詳細は、

「#Creating_a_Customized_XML_Configuration_File カスタマイズした XML 設定ファイルの作成」を参照してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. マスターインストールの `user-dir/config/soffice.cfg/modules` ディレクトリの内容を `network-install-dir/share/config/soffice.cfg/modules` ディレクトリにコピーします。
3. OpenOffice.org を再起動します。

カスタマイズしたユーザーインタフェースを単一のユーザーに適用する

マスター OpenOffice.org インストールで、変更する UI 要素ごとに、カスタマイズした XML 設定ファイルを作成します。詳細は、「カスタマイズした XML 設定ファイルの作成」を参照してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. マスターインストールの `user-dir/config/soffice.cfg/modules` ディレクトリの内容を単一のユーザーインストールの `user-dir/share/config/soffice.cfg/modules` ディレクトリにコピーします。
3. OpenOffice.org を再起動します。

OpenOffice.org の機能の制限

OpenOffice.org プログラムモジュールの機能は、個々のユーザー、グループ、またはネットワークを通じて制限できます。ユーザーごとに異なる制限を適用できます。また、XML 形式のコマンド設定ファイルを作成して、OpenOffice.org プログラムのメニューコマンドの使用を制限することもできます。

コマンド設定ファイルの作成

コマンド設定ファイルの作成は、次の 3 つの手順で行います。

・制限する機能のコマンド名を調べます。

・XML 設定ファイルを作成します。

・この設定ファイルを OpenOffice.org インストールディレクトリの適切な場所にコピーします。

コマンド設定ファイルを作成する

1. 制限する機能の UNO コマンド名を調べます。
2. テキストエディタで、XML 設定ファイルを作成します。

a) 次のファイル構造を使用します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
 <oor:node oor:name="Commands" oor:package="org.openoffice.Office"
 xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
 xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <node oor:name="Execute">
    <node oor:name="Disabled">
      <node oor:name="CommandName" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>CommandName</value>
        </prop>
      </node>
    </node>
  </node>
 </oor:node>
```

Commands.xcu ファイルでは、次のスキーマが使用されます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
 <oor:component-schema oor:name="Commands"
 oor:package="org.openoffice.Office" xml:language="ja-JP"
 xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
 xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <templates>
    <group oor:name="CommandType">
      <prop oor:name="Command" oor:type="xs:string"/>
    </group>
  </templates>
  <component>
    <group oor:name="Execute">
      <set oor:name="Disabled" oor:node-type="CommandType"/>
    </group>
  </component>
 </oor:component-schema>
```

b) 制限する機能ごとに異なるノードを作成します。

c) 各ノードで、CommandName という用語を機能のコマンド名で置き換えます。

3. このファイルを Commands.xcu という名前で保存します。

次の Commands.xcu ファイルでは、OpenOffice.org のメニューをカスタマイズする機能が無効になります。この制限をすべてのユーザーに適用するには、このファイルを network-install-dir/share/registry/data/org/openoffice/Office ディレクトリにコピーします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
 <oor:node oor:name="Commands"
 oor:package="org.openoffice.Office"
 xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
 xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
   <node oor:name="Execute">
     <node oor:name="Disabled">
       <node oor:name="ConfigureDialog" oor:op="replace">
         <prop oor:name="Command">
           <value>ConfigureDialog</value>
         </prop>
       </node>
       <node oor:name="ConfigureToolboxVisible" oor:op="replace">;
         <prop oor:name="Command">
           <value>LoadToolBox</value>
         </prop>
       </node>
     </node>
   </node>
  </oor:node>
```

コマンド名のリストとその説明については、「Index of UNO Command Names for OpenOffice.org」を参照してください。

コマンド設定ファイルを適用する

コマンド設定ファイルは、Solaris、Linux、および Windows プラットフォーム上の OpenOffice.org に適用できます。

1. すべての OpenOffice.org アプリケーションを終了します。
Windows では、システムトレイにある OpenOffice.org クイック起動も終了してください。

2. `Commands.xcu` ファイルを適切なディレクトリにコピーします。

3. この設定をネットワーク上のすべてのユーザーに適用するには、`Commands.xcu` ファイルを次のディレクトリにコピーします。
`network-install-dir/share/registry/data/org/openoffice/Office`

4. この設定をネットワーク上の特定のユーザーに適用するには、`Commands.xcu` ファイルを次のディレクトリにコピーします。
`workstat-dir/user/registry/data/org/openoffice/Office`

OpenOffice.org を再起動すると、設定が適用されます。

LDAP サーバー上の OpenOffice.org ユーザープロファイルへのアクセス

OpenOffice.org では、LDAP User Profile Back End を使用して、ユーザープロファイル (名、姓、電子メールアドレスなど) にアクセスできます。したがって、OpenOffice.org をネットワークにインストールするとき、ユーザープロファイルを手動で入力する必要はありません。

LDAP リポジトリから OpenOffice.org 用のユーザープロファイルを取得するには、次の情報を LDAP User Profile Back End に提供する必要があります。

・LDAP リポジトリの場所

・OpenOffice.org ユーザープロファイルの生成に必要な LDAP リポジトリの属性を識別するマッピングファイル

LDAP リポジトリからユーザープロファイルを取得するための OpenOffice.org の設定

LDAP.xcu という XML ファイルに、LDAP User Profile Back End の設定を指定します。これらの設定は OpenOffice.org の起動時に読み込まれます。LDAP.xcu ファイルの構造は、org.openoffice.LDAP コンポーネントの設定スキーマによって定義されます。このスキーマは、install-dir/share/registry/schema/org/openoffice/LDAP.xcs にあります。

LDAP リポジトリからユーザープロファイルにアクセスできるように OpenOffice.org を設定する

テキストエディタで、LDAP.xcu という名前の XML 設定ファイルを作成します。

LDAP.xcu ファイルの例は、install-dir/share/registry/data/org/openoffice/LDAP.xcu.sample にあります。

LDAP.xcu.sample ファイルの構造は次のとおりです。

```
<oor:component-data oor:name="LDAP" oor:package="org.openoffice"
xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
<node oor:name="UserDirectory">
  <node oor:name="ServerDefinition">
    <prop oor:name="Server" oor:type="xs:string">
      <value>ldapserver.mycorp.com</value>
```

```
    </prop>
    <prop oor:name="BaseDN" oor:type="xs:string">
      <value>dc=mycorp,dc=com</value>
    </prop>
    <prop oor:name="Port" oor:type="xs:int">
      <value>389</value>
    </prop>
  </node>
  <!-- The following settings should be omitted if anonymous access is
possible -->
    <prop oor:name="SearchUser" oor:type="xs:string">
       <value>MyUserLogin</value>
    </prop>
    <prop oor:name="SearchPassword" oor:type="xs:string">
       <value>MyPassword</value>
    </prop>
  <!-- End of strings that should be omitted if anonymous access is
possible -->
  <prop oor:name="UserObjectClass" oor:type="xs:string">
    <value>inetorgperson</value>
  </prop>
  <prop oor:name="UserUniqueAttribute" oor:type="xs:string">
    <value>uid</value>
  </prop>
  <prop oor:name="Mapping" oor:type="xs:string">
    <value>oo-ldap</value>
  </prop>
 </node>
 </oor:component-data>
```

Server

LDAP サーバーのホスト名。

BaseDN

エンタープライズディレクトリのルートエントリ。

Port

LDAP サーバーのポート番号。デフォルトのポート番号は 389 です。

SearchUser

LDAP リポジトリへの読み取り専用アクセス権を持つ既存のユーザーの識別名 (DN)。この設定は、LDAP サーバーが匿名アクセスをサポートしていない場合にのみ必要です。

SearchPassword

SearchUser のパスワード。この設定は、LDAP サーバーが匿名アクセスをサポートしていない場合にのみ必要です。

UserObjectClass

ユーザーエンティティを識別するオブジェクトクラス。たとえば、OpenDS サーバーのユーザーエンティティは inetOrgPerson です。ユーザーの DN を見つけるには、このエンティティとともに UserUniqueAttribute 属性を使用する必要があります。

UserUniqueAttribute

ユーザーエンティティを識別する属性。

たとえば、OpenDS サーバー上の LDAP リポジトリの UserUniqueAttribute は、uid です。ユーザーの DN を見つけるには、この属性とともに UserObjectClass を使用する必要があります。サーバーでは、この属性の値とオペレーティングシステムのログインユーザー名が比較されます。

Mapping

指定されたマッピングファイルを示す文字列 ($(Mapping)-attr.map)。

たとえば、LDAP リポジトリが OpenDS サーバーである場合、マッピングエントリは oo-ldap です。このエントリは、LDAP User Profile Back End に対して oo-ldap-attr.map をマッピングファイルとして使用するように指定します。また、LDAP リポジトリが Active Directory である場合、マッピングエントリは oo-ad-ldap です。このエントリは、LDAP User Profile Back End に対して oo-ad-ldap-attr.map をマッピングファイルとして使用するように指定します。

LDAP.xcu ファイル内の値プレースホルダを、LDAP サーバーの必須設定で置き換えます。

この LDAP.xcu ファイルを install-dir/share/registry/data/org/openoffice/ にコピーします。

LDAP ユーザープロファイルのマッピング

デフォルトでは、OpenOffice.org インストールには OpenOffice.org ユーザープロファイル属性を LDAP 属性に割り当てる 2 つのメタ設定マッピングファイルが含まれます。LDAP User Profile Back End では、Sun Java System Directory Server 用の install-dir/share/registry/ldap/oo-ldap-attr.map マッピングファイルと、Windows Active Directory Server 用の install-dir/share/registry/ldap/oo-ad-ldap-attr.map マッピングファイルが使用されます。LDAP.xcu ファイルのマッピングエントリによって、どちらのマッピングファイルを使用するかが示されます。たとえば、oo-ldap は oo-ldap-attr.map ファイルを示します。

マッピングファイルの場所を変更するには、install-dir/program/configmgrrc ファイルの CFG_LdapMappingUrl エントリがファイルの新しい場所を指すように編集します。Windows では、このエントリは install-dir/program/configmgr.ini ファイルにあります。

代替 LDAP サーバー用にカスタムユーザープロファイルマッピングファイルを作成することもできます。

カスタムユーザープロファイルマッピングファイルを作成する

1. oo-ldap server type-attr.map という名前のテキストファイルを作成します。

   既存のマッピングファイルのコピーを編集します。たとえば、install-dir/share/registry/ldap/oo-ldap-attr.map です。

2. マッピング情報を入力します。

このファイルの各行は、次の形式である必要があります。user-profile-attribut=LDAP-attribute1,LDAP-attribute2,...,LDAP-attribute-n

割り当てることができるユーザープロファイル属性は、OpenOffice.org 設定スキーマに存在するものだけです。このスキーマのファイル名パスは install-dir/share/registry/schema/org/openoffice/UserProfile.xcs です。対応する LDAP 属性のリストを編集して、ユーザーエントリのどの属性で個人データを保持しているかを表示できます。LDAP サーバーによる LDAP 属性の照会は、このリストにある属性の順に行われます。

3. マッピングファイルを install-dir/share/registry/ldap/ ディレクトリにコピーします。

マッピングファイルをネットワークインストールのこのディレクトリにコピーするには、管理者特権が必要です。

4. install-dir/share/registry/data/org/openoffice/LDAP.xcu ファイルで、Mapping プロパティの値を、マッピングファイル名の -attr.map より前にある文字列に変更します。たとえば、ファイルの Mapping プロパティの値です。